

## 上田市教育委員会 8 月定例会会議録

### 1 日 時

令和4年8月19日（金） 午後3時00分から午後3時40分まで

### 2 場 所

上田市役所202・203会議室

### 3 出席者

#### ○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	北 沢 秀 雄
委 員	森 田 小 百 合
委 員	大 久 保 恵 子
委 員	木 口 博 文 （欠 席）

#### ○ 説 明 員

小野沢教育次長、児玉教育参事、山賀教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課課長、久保田人権同和教育政策幹、和根崎上田城跡整備担当政策幹、櫻井スポーツ推進課長、清水第一学校給食センター所長、星野中央公民館長、馬場上野が丘公民館長、坂部上田市立博物館長、小林丸子地域教育事務所長、松木真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長

## 1 あいさつ

教育委員会では、コロナウィルス第7波レベル6という厳しい状況の中で業務を続けている。また上田市は、昨日 301 人という罹患者がおり、とうとう 300 人台に突入してしまった。厳しい中ではあるが、感染予防策を徹底し、組織内の安全を守りながら業務の遂行に努めてまいりたいと思う。

本日、木口委員が所用により欠席である。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第14条3により、会議は教育長を含め委員の半数以上の出席が必要である。今回の定例会はこの要件を満たしているため、会議が成立していることを申し添える。

## 2 協議事項

### (1) 西内小学校の統合について（教育総務課）

○資料1により山賀教育総務課長説明

本日お諮りするの、西内小学校の統合についてである。まず、西内小学校の児童数の減少については地域住民が独自に検討組織を設置し、長年にわたり学校のあり方に関する協議を重ねてこられた。そして令和3年3月には、西内小学校に関するアンケート結果の報告と合わせ、今後は教育委員会が主体となり、学校のあり方を地域とともに検討してほしいとの申し出があった。

これを受け、教育委員会では「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」を踏まえ、小規模化が著しい西内小学校は、丸子中央小学校との統合を検討する時期を迎えていると保護者にお伝えし、懇談の場等で意見交換を行い、教育委員会においても、委員の皆さまとともに検討を重ねてきた。その結果、保護者及び地域住民に概ねご理解をいただいたことから、本日、西内小学校の、丸子中央小学校への統合についてお諮りするものである。では、お手元の資料1をご覧ください。

西内小学校の統合について、上田市小中学校のあり方に関する基本方針に基づき、上田市立西内小学校については、保護者及び地域住民との検討を踏まえ、下記のとおり決定することとしたいというものである。1内容について「令和6年3月31日をもって上田市立西内小学校を廃し、同年4月1日をもって、上田市立丸子中央小学校の通学区域に平井、西内及び鹿教湯温泉を加える。」2その他として、「(1) 上記を実施するにあたり、統合の前後において、生活環境の変化に対する児童の不安を緩和するために、さまざまな配慮を実施する。」「(2) 統合に向けた準備組織を設置し、学校教職員や保護者、地域住民と共に丁寧に検討を進め、決定された事項の実施については、教育委員会が責任を持って対応する。」というものである。

### 峯村教育長

ただ今、事務局から議案の説明があった。それではここで、議案の提案者として、西内小学校の統合についての考えを申し上げたい。

私はこれまで長い間、地域独自で議論を進めていただいた西内小学校のあり方検討委員会からの問題解決の御依頼や、上田市小中学校のあり方検討委員会にまとめていただいた「あり方の基本方針」、西内小学校の保護者の皆さんの思い等々を踏まえ、子ども達のためには、何が

切なのか、ずっと考えて続けてきた。また実際に西内小学校の授業を幾度か参観し、少子化が学習にどのように影響を及ぼしているのかを確かめた。そのうえで、私の考えを次のようにまとめた。

まず、子どもを育てる教育環境や授業として、一定程度の人数の子どもたちが授業の中で多様な考えを出し合って学びが深まっていくことが大切である。そのような教育環境が望ましい。少子化している西内小学校の現状では、対話的な学び合いが難しい。

次に、西内小学校の児童は、明るく素直な子ども達であることや、学校職員も一生懸命頑張っていることを認識してきたが、少子化による児童数の減少が、学び以外の学校行事、集団活動にも大きな制約を及ぼしている。

さらに、西内小学校で実施している5・6年の複式学級の設置は、少子化により、やむを得ない措置である。複式学級では、違う学年の児童が、同じ教室でそれぞれ異なる内容の学習をしているので、子どもたちのモチベーションが高まらず、クラスで一つになった追求ができていく。また、授業中、教師と児童、一対一の対応が多くなってきていることや、そのことによって、児童が担任を頼りすぎるあまり、安易に答えや結論を求める場面があり、学びの自立が難しくなっている。以上のことを、少子化した西内小学校の課題として捉えている。したがって学校教育においては、個人の有する能力を伸ばし、自立的に生きる力を養うことが重要であることから、丸子中央小学校への統合は、子ども達の伸びる芽を更に伸ばすことができると考える。これらが、西内小学校と丸子中央小学校の統合を提案した理由である。

それではここで、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思う。

#### 北沢委員

今、事務局から提案があった西内小学校の統合について、結論から申し上げますと、西内小学校の丸子中央小学校への平成6年4月1日をもつての統合に賛成である。

統合についての自分の思いや賛成の理由を少しお話させていただく。一つの学校が無くなるということは、地域コミュニティの核が一つなくなるということでもあるので、「残念である」という思いだ。子どもたちの思いも、例えば、「この学校で卒業したい」「ぜひ学校を残して欲しい」というような思いもあると承知している。私はこの10年間で5回ほど西内小学校を訪問してきた。今年度も2回お邪魔させていただいた。10年前に訪れた時は、授業参観後、ランチルームで子どもたちと一緒に楽しく給食を食べたという思い出もある。子どもたちは、授業でもその他の場面でも非常に明るくて、一生懸命で、素直で、良い挨拶をしてくれたことを覚えており、今年度の訪問でもそうであった。

学校が無くなるということは残念である。ただ、子どもの発達段階において、どのような学びをしていかなければならないかということを考えると、子ども達というのは、その子なりに「知・徳・体」に調和がとれた「生きる力」をつけていく必要がある。予測が困難で変化の大きい時代には、生きる力の「知・徳・体」の中でも「知」の部分の一つの「タフな思考力」が最も必要ではないかと思う。「生きる力」を身につけていくために、授業や行事等の教育活動をどのようにしなければならないのか。それにはやはり、上田市小中学校のあり方検討委員会から提言があった「適正規模」の集団の中で学んでいくべきだと思う。

そのために、様々な事柄をいろいろな視点や角度から、長い間かなりの時間をかけ慎重に協議してきたはずだ。そのうえで総合的に判断して、子ども達にとって最も望ましい教育環境という点で考えるならば、やはり統合の方向で良いのではないか。

峯村教育長

続いていかがか。

森田委員

西内小学校の統合について、私も結論から言うと、令和6年4月1日をもって上田市立丸子中央小学校への統合という方向に賛成である。それに至るまでの考えを述べさせていただく。私は、西内小学校を見学させていただく中で、先生も子どもたち同士も、本当に1人ずつの個性を理解し合いながら、そして、安心して落ち着いた授業の中で進められている、非常にいい関係性を持っている環境である、ということは実感している。

しかしながらお話に出ているように、一対一の授業の進行というようなところが、非常に懸念されると思った。私も、自分の出身の小学校は、かなり前であるが廃校になっている。それぞれの地域の小中学校を学校訪問するにあたって、地域の学校というのは、通っている子ども達だけではなく、地域の長い歴史や風土の中で育まれている文化の上に成り立っている、ということを感じながら、毎回それぞれの学校訪問をさせていただいている。それだけに、公立の小学校・中学校は地域の皆さんの拠り所としての存在価値があることは充分理解している。

しかしながら、学校の一番の役割は、子どもの「学びの場」である。特に小学校は社会集団の中に入っていき第一歩のところ。小さいときから周囲の人が、その子の個性を理解していたり、親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんたちと人間関係が密接な地域の中で育まれる小学校で過ごしていける場合もあるかもしれないが、多くの社会集団ということでは、必ずしもその子のことを学校で触れ合う以外のところまで、全部を理解して関われる人間関係で成立するという事は残念ながら少ない。

でも、子どもたちは、これから様々な社会集団の中に入っていき中で、集団の中での自分、自分以外の他の人との関わりをどのように形成し付き合っていくか、認め合わなくてはいけないのか、時には自分の主張を認めてもらえない場合もあるかもしれない。そういう時に、自分はどのような行動や言動をしていかなければならないのか。そういうことも含めて、小学校とは社会集団の中の学びということが大いにあると思う。自分のことを理解してもらえないところに行く環境の中の学びというものも、非常に重要であると私は考える。そういう意味では、今回のこの統合によって、あらたな人間関係に遭遇するかもしれない。でも、それも学びだというふうに捉えることが重要ではないかと思う。また統合時期についても、令和6年、丸子中央小学校では5年生のクラス替えをすることで、今、西内小学校のいちばん大勢いる3年生が、5年生になる時にクラス替えの時期と一致するタイミングで統合するという事について、私は賛成と考える。

峯村教育長

他にはいかがか。

大久保委員

結論から言うと、私も統合に関しては令和6年4月の統合に賛成である。地域との懇談会の様子をお聞きしているなかで時期尚早なのではないかのご心配いただいている方がいらっしゃるということも聞いている。また、統合に関して賛成いただいている方々も、お気持ちとしては、本当であれば学校を残していきたいが、今の西内小学校の状況を見て、今の環境では子どもたちのためによくない、またこれから入学する子どもたちにより良い環境で教育を受けてもらいたいというお気持ちからご賛同いただいていると思う。今後の進め方として、そういった地域の方々の想いを汲んだ、丁寧な進め方をしていっていただきたいと思う。

去年、今年と、西内小学校を訪問させていただいたが、素晴らしいものがたくさんある小学校である。金管バンドの演奏も、十数人の演奏でもこんなに素晴らしい音が出るのか、というくらい素晴らしい演奏を聞かせていただいたり、授業も先生方が熱心に取り組んでいただいている様子もを見せていただいた。また、校内に登り窯があり、毎年窯焚きをし、陶芸の体験授業をしているというお話もお聞きしている。学校を訪問させていただいたときには、沢山の薪が準備されており、子どもたちの素晴らしい作品もを見せていただいた。このようなことからいかに、この小学校を保護者や地域の方々が大切に思い、支えてきたかが本当によく分かる。

ただ、やはり各クラスの人数があまりにも少ないことと、保育園からずっと一緒の子たちがそのまま小学校で授業を受けているのを見ると、複式学級で授業を進め個別に丁寧に対応できているとはいうものの、活気が感じられなかったりする授業の場面などもあったりし、これは大きなクラスでたくさんのお友達と触れ合いながら勉強していく方が子ども達のためではないのかなと思う。また、統合のタイミングも今いる在校生、それから本来であれば西内小学校に入学するはずであった子どもたちに一番負担の少ないタイミングである令和6年4月が良いと考える。

ただし、全ての学校がそうだと思うが、長い歴史のある学校というのは、地域にとって心の拠り所であったり、将来への希望の場であると思う。その学校が無くなってしまふ地域の方々のお気持ちを汲んで、今後の統合を進めていっていただきたい。また金管バンド、登り窯による陶芸の体験など西内小学校の素晴らしい教育をなんとか残してくようご配慮いただきたいと思います。ぜひ物理的、精神的な配慮を十分にいただき、丸子中央小学校との交流であるとか、スクールバスのことであるとか、さまざまな地域の方々の不安を解消しつつ統合を迎えて行っていただきたいと強く思う。

峯村教育長

ありがとうございました。

本日欠席されている木口委員から、西内小学校の統合についてのお考えをいただいております、それを読ませていただく。

「学校訪問をさせていただいたが、やはり1クラス10人はいないと、学校としての活動や役割を果たせないのではないかと感じた。今後、子ども達が増えるという可能性もない。3年生は、ある程度人数はいるが、その下の学年の子供たちのことを考えると、早い時期に丸子中央小学校への統合の方が良いと判断した。令和6年で決定となったら、教育委員会には西内小学

校と丸子中央小学校の子どもたちが、合同で活動などができるよう交流を進めていただき、統合となるようお願いしたい。」というご意見をいただいた。

学校の統合ということで、西内小学校については、教育委員の皆さんと自由闊達な議論を交わすために、昨年5月から非公開の協議会の場で意見を交換してきた。また、委員の皆さんには西内小学校の授業を参観していただくなど、実際の子どもの様子を見ていただく中で、考えをまとめていただき本日もご意見をいただいた。

それではこれより、協議事項1について、採決を行う。原案のとおり採決することに賛成の方は挙手を願う。

(出席委員全員挙手)

峯村教育長

3人の皆さんの挙手となった。

よって、本件は原案どおり可決された。

### 3 報告事項

#### (1) 信州上田5大学リレー講座2022「未来学科」について（生涯学習・文化財課）

○資料2により上原生涯学習・文化財課長説明

この講座につきましては、大学の最先端の学びを市民の生活や地域づくりに役立てていただくため、表に記載の市内5つの大学が学校の枠を超え、地域に開かれた「学科」として、大学をリレーして講座を開催するものである。内容であるが、10月22日の講座を初回とし、12月10日までの5回の講座内容としている。

初回は上田女子短期大学、信州大学、長野県工科短期大学校、筑波大学、そして長野大学、それぞれの大学の専門性と、学びとなるテーマで講義をいただく予定である。そして、市民の皆さまに地域の大学を身近に感じていただくため、各大学のキャンパスを会場として、実施するとともに、各講座終了後には、大学のキャンパスツアーを計画しているところである。

また、この講座の受講に際しては、地元のケーブルビジョン、ケーブルテレビに協力をいただき、放送の視聴による自宅での受講も可能にしており、その受講者が、レポート感想文を提出していただくことにより、4回の回数を満たす場合には、受講の修了者として、修了証を発行する予定である。その他、受講料や運営方法他については記載のとおりである。

峯村教育長

ただ今の説明において、ご質問、ご意見いかがか。

よろしいか。

○全員了承

#### (2) 「第17回人権を考える市民のつどい」について（生涯学習・文化財課）

○資料3により久保田人権同和教育政策幹説明

それでは、「第17回人権を考える市民のつどい」についてご説明させていただきます。この催しは、上田市全地域を対象とするもので、新市となってから17回目を迎える。目的としては、この「市民のつどい」をきっかけとして、市民一人ひとりの人権尊重の意識の高揚を図ること

を目的に開催するものである。主催は、上田市人権啓発推進委員会、部落解放同盟上田市協議会、上田・佐久地域人権啓発活動ネットワーク協議会のほか、上田市、上田市教育委員会の5団体になる。なお、上田・佐久地域人権啓発活動ネットワークは、法務局の管轄する人権啓発活動の組織である。

次に、開催日時は、10月13日（木）午後1時30分から。場所は、サントミュージゼの大ホールで開催させていただく。講演会の講師は、書家の金澤泰子さんと、金澤翔子さんをお招きし、「ダウン症の娘と共に生きて」と題し、講演をいただくことになっておる。なお、開催方法については、新型コロナウイルス感染症の状況により、通常通りの講演ができない場合も考えられる。感染状況に応じて、参集範囲を少なくし人数を減らしたり、昨年度のように収録したものを地域のケーブルテレビで放映するなど、来週22日月曜日に、主催である上田市人権啓発推進委員会の会議で決める予定である。詳細については、お配りしたパンフレットのとおりである。

峯村教育長

ただ今の人権を考える市民のつどいについて、ご質問、ご意見いかがか。  
よろしいか。

○全員了承

(3) 文化財 de 文化祭 in 安楽寺の開催について (生涯学習・文化財課)

○資料4

(4) 「第37回みんなの人権セミナー」の開催について (丸子地域教育事務所)

○資料5

(5) 第33回ともしびの里駅伝大会の開催について (武石地域教育事務所)

○資料6

(6) 寄付の状況について (学校教育課 上田図書館)

○資料7

(7) スポーツ関係市長表敬訪問者の報告について (スポーツ推進課)

○資料8

(8) 行事共催等申請状況について (学校教育課 生涯学習・文化財課 中央公民館)

○資料9

(9) 公民館だより (各公民館)

○資料10

峯村教育長

(3) 番から (9) 番まで説明がないが、お手元のパンフレット等をご覧いただき、ご質問・ご意見をお願いします。

大久保委員

資料5の「みんなの人権セミナー」について。第3講座には、“山崎福太郎さんがソチパラリンピック、アルペンスキー日本代表の方で、体験談などを語っていただく”などとあるが、第1・2講座に関しては講演の内容など出ていないので、少し記載があるとわかりやすいのではないかと思う。

小林丸子地域教育事務所長

この具体的な内容について、まだ決まっていない状況である。

大久保委員

決まったら入る予定か。

小林丸子地域教育事務所長

チラシは、スペースの関係でこれ以上の情報が入れないということはあるが、内容についてはもう少ししたらはっきりする。

大久保委員

第1講座の小林さんに関しては情報が何もない。この第3講座ぐらいの内容でも良いと思うので何かあると親切かと思う。

小林丸子地域教育事務所長

次回以降、注意し反映させていきたい。

峯村教育長

よろしいか。

それでは、その他で事務局から連絡があればお出しいただく。

○事務局より連絡事項なし

峯村教育長

それでは本日の定例会を終了する

閉 会